

取組実績の概要 【2ページ以内】**○ 学生交流プログラム**

本学においては、医学部（医学科、保健衛生学科）、歯学部（歯学科、口腔保健学科）の学部学生、大学院（医歯学総合研究科、保健衛生学研究科）の学生が、交流プログラムに参加した。交流相手大学は、タイのチュラロンコン大学（医学部、歯学部、保健医療学部）、シーナカリンウィロート大学（歯学部）、インドネシアのインドネシア大学（歯学部）、ベトナムのホーチミン医科薬科大学（歯学部）、オーストラリアのシドニー大学（歯学部）、メルボルン大学（歯学部）である。

本学では、海外研修に参加して単位が取得できる制度を整備し、事前研修等も提供し、質の保証された交流プログラムを実施した。本学で研修した外国人学生・教員の中には、その後、本学の博士課程に進学した者もいた。

5年間に学生交流プログラムに参加した総数は、海外派遣した日本人学生が224人、受入れた外国人学生が181人と、計画より多くの学生交流を実現することができた。

○ 国際学会会合の開催

以下に示す国際シンポジウム、国際セミナー、グローバルリトリートを実施し、学部学生・大学院生・若手研究者等の知識・技術の向上に努めた。技術指導に関しては、個別指導や小人数のワークショップ形式で実施した。

1) 国際シンポジウム

- I. 国際医療人の育成を目指して～元学部留学生による歯学教育の国際評価～（2013. 2. 13、東京）
- II. 日本の歯学教育の国際汎用性を考える～元留学生による大学院教育の国際評価～（2013. 3. 11、東京）
- III. 東南アジア歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム（2013. 10. 28、東京）
- IV. 国際交流プログラムを通して学んだこと、考えたこと（2014. 10. 24、東京）
- V. 東南アジアにおける口腔保健と歯学教育の動向（2015. 10. 21、東京）
- VI. 国際交流プログラムを通して学んだこと、考えたこと（2015. 10. 23、東京）
- VII. グローバルヘルスリーダーの養成を目指して（2016. 10. 11、東京）
- VIII. 国際交流プログラムを通して学んだこと、考えたこと（2016. 10. 18、東京）

2) 国際セミナー

- I. 魅力ある海外研修プログラムの構築を目指して～タイ研修参加学生からの報告～（2012. 12. 14、東京）
- II. 矯正歯科治療の現状と展望（2013. 4. 11～4. 12、Ho Chi Minh）
- III. 第1回チュラロンコン大学・東京医科歯科大学 矯正科合同セミナー（2013. 5. 13、Bangkok）
- IV. 日本のオーラルヘルスプロモーションプログラム～インドネシアと比較して～（2013. 09. 06、Jakarta）
- V. タイ歯科学術交流セミナー（2014. 3. 21、Khon Kaen）
- VI. 世界の口腔保健の最新トピックス（2015. 3. 07～3. 16、東京）
- VII. 若手研究者による講義シリーズ（2015. 10. 14～10. 22、東京）
- VIII. オーラルヘルスサイエンス（2015. 10. 27、東京）
- IX. オーラルヘルスサイエンス（2016. 10. 11、東京）
- X. ミニレクチャーシリーズ（2016. 10. 12～10. 17、東京）

3) グローバルリトリート

学生や教職員が寝食を共にしながら合宿形式で研修・交流を行うグローバルリトリートでは、英語での研究発表、グループワーク、文化交流等を行い、学術交流とともに学生が楽しく国際理解を深める活動を行った。同世代の学生同士が楽しく国際交流を行うことは関係の継続性につながり、将来の医療・

歯科医療ネットワークの構築につながることを期待できる。実施した国や参加大学を以下に示す。

年月	国	参加大学
2013/3	日本	東京医科歯科大学 / チュラロンコーン大学 / インドネシア大学 / ホーチミン医科薬科大学
2013/10	タイ	東京医科歯科大学 / チュラロンコーン大学
2014/10	インドネシア	東京医科歯科大学 / チュラロンコーン大学 / インドネシア大学
2015/10	ベトナム	東京医科歯科大学 / チュラロンコーン大学 / インドネシア大学 / ホーチミン医科薬科大学
2016/10	日本	東京医科歯科大学 / チュラロンコーン大学 / インドネシア大学 / ホーチミン医科薬科大学 / シーナカリンウィロート大学

○ 元留学生を核とした医療・歯科医療ネットワークの構築

本事業を契機に、日本の歯科大学（歯学部）に留学し、帰国後に母国の大学などで活躍している歯科医師による同窓会組織が、既設のタイ以外に、インドネシア、ベトナムにも設置された。東京医科歯科大学（TMDU）の出身者だけによる組織ではないが、TMDU 出身者の数が多く、それぞれの同窓会の会長は全員本学の元留学生である。日本語が話せ、日本の医療制度を理解し、日本の医療・歯科医療技術を身につけている元留学生は、本学学生を自国に受け入れた時、また、自国の学生を本学に派遣する際に、自らの留学経験をもとに、学生の交流プログラムを積極的に支援してくれた。特に本学学生派遣時には同窓会会員の歯科医院の見学の企画や、歯科専門分野の講演を実施してくれた。

また、元留学生等を対象として、継続的な学術交流（最新の医療情報・技術の提供）を行い、東南アジアにおいて国際医療・歯科医療ネットワークを構築する上で、核となる人材を育成することができた。元留学生等を介して、今後、我が国を中心とした東南アジアにおける医歯学領域の研究教育診療拠点の持続的発展を目指すことが期待できる。

国	同窓会組織、会長
タイ	JDAT (Japan Dental Alumni of Thailand) 会長：Dr. Suconta Chareonvit（チュラロンコーン大学 准教授） 本学（TMDU）で博士号取得
インドネシア	JDAI (Japan Dental Alumni of Indonesia) 会長：Dr. Sri Angky（インドネシア大学前歯学部長） 本学（TMDU）で博士号取得
ベトナム	JDAV (Japan Dental Alumni of Vietnam) 会長：Dr. Luong van To My（ホーチミン医科薬科大学歯学部放射線学講座主任） 本学（TMDU）大学院特別研究生

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		合 計	
	派遣	受入	派遣	受入								
計画※	18人	10人	36人	21人	40人	31人	40人	35人	44人	39人	178人	136人
実績	19人	25人	58人	36人	50人	38人	43人	40人	54人	42人	224人	181人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

○ 学生交流に役立つ語学教材の作成と活用

1) 「5ヶ国語基本歯科用語集」の作成と活用

日本人学生と外国人学生がコミュニケーションする際は、英語を使用する機会が多い。しかし、歯科の専門用語は特殊であるため、母国語と英語の単語を同時に理解していくことが必要となる。そこで、英語、日本語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語からなる「5ヶ国語基本歯科用語集」を作成し、活用した。専門用語の翻訳作業には、本学の留学生や海外大学の教員の協力を得たが、実際にプログラムで学生や教員が利用した結果をフィードバックし、内容や様式をアップデートして、様々な場面で使いやすい教材を作成した。

本教材は、日本人学生の海外派遣時にも、外国人学生の本学受入れ時にも利用することができ、各国の学生の歯科専門用語の共通理解を促進することができた。また、学生だけでなく、各国の教員も教育指導に有効に活用することができた。

2) 「タイ語基本会話集」「インドネシア語基本会話集」「ベトナム語基本会話集」の作成と活用

日本人学生が、海外派遣プログラムに参加する場合には、英語だけでなく、現地語での基本的な日常会話ができることが必要と考え、日本語、英語、現地語（タイ語、インドネシア語、ベトナム語）からなる「基本会話集」を作成した。現地語の部分は発音をカタカナで示し、海外派遣前の事前研修の際に、本学留学生の指導を受けて学習する機会を設け、異文化理解が進むように工夫した。本教材は、外国人学生が日本で研修を行う際にも配布し、活用することができた。

○ 若手教員の英語能力の向上

若手教員を対象に、英語による教育力（英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導）向上のための研修会を、外部機関の協力のもと実施した。その結果、若手教員が、英語を使用したセミナー、授業、学会等でのプレゼンテーションをする機会が大きく増加した。平成27年度と28年度には、本事業の外国人学生受入プログラムの中で、若手教員による講演・セミナーをシリーズで実施することができた。

学生の交流プログラムを支援する教員、特に若手教員の英語能力を向上させることは、今後、大学の国際化を推進する上で、重要であると思われる。

○ ジョイント・ディグリープログラムの開講

本事業を実施する中で、タイのチュラロンコーン大学と本学との間で教育に対する協力連携体制が強化され、それがジョイント・ディグリープログラムを開講する契機となった。ジョイント・ディグリープログラムとは、連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該の連携大学が共同で単一の学位を授与するものである。

具体的には、平成26年2月に、両大学の学長間でジョイント・ディグリーコースの開設に向けた覚書の調印がタイで行われ、その後、何回も会議を重ねて、カリキュラム内容、学位の審査体制、学生の管理などについて協議し、大学院プログラム開講に向けた詳細な準備が着実に進められた。平成27年11月に、ジョイント・ディグリープログラム開講に関する協定調印式が本学で行われ、平成28年度からの大学院プログラムの実施について両大学が合意した。その後両大学による入学試験を経て、平成28年8月から3名のタイ人学生が本プログラムに入学し、5年間の歯科矯正学分野の博士課程が開始された。

東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学 国際連携歯学系専攻（博士課程）
（入学定員：3名、修業年限：5年、主な教育研究内容：歯科矯正学）

○ 世界大学ランキングによる本学の高い評価

2017年3月、Times Higher Educationの小規模大学ランキングでは、本学は日本第1位・世界第17位に選出された。クアクアレリ・シモンズ（QS）による分野別QS世界大学ランキングでは、本学は医学分野が日本第4位、世界101-150位、歯学分野が日本第1位、世界第3位と高く評価された。

これは、本学の学術研究レベル、教育の質、国際競争力の高さが国内だけでなく海外の大学等にも広く認知されていることを示し、海外の大学と様々な交流プログラムを実施した本事業の成果の一つと考えられる。